

FAQ

<学校生活について>

1 HRクラスは一般コース生と別になりますか。
—— 完全に分かれることはありません。DP 選択者は一般コース生とともにAクラスに所属する予定です。授業に関しては、ほとんどの授業が別々となりますが、保健体育等、合同で実施する授業もあります。

2 生活時程は一般コース生と異なりますか。
—— 一日の生活時程はほぼ変わりません。ただし、授業時間数を確保するために、7限・8限に授業を実施したり、夏季休業や冬季休業期間が一般コース生と異なったりする可能性があります。

3 定期考査は一般コース生と異なりますか。
—— 定期考査のスケジュールは一般コース生とは異なります。高等部2年次の1学期末・3学期末、高等部3年次の1学期末の計3回実施する予定です。試験に内容に関しても一般コース生の定期考査と異なり、最終試験の模擬試験を中心に実施する予定です。

4 学校行事や生徒会活動は一般コース生と一緒に活動できますか。
—— 定期考査や一部行事の時間が異なりますが、紅華祭（体育の部・文化の部）・クラスマッチ等の学校行事や、生徒総会・委員会などの生徒会活動については一般コース生と一緒に活動できます。

5 部活動は一般コース生と異なりますか。
—— CAS 活動のひとつとして位置づけられる場合がありますが、活動自体は一般コース生と一緒に活動し、内容もほぼ変わりません。

<履修について>

6 高等学校卒業資格は取得できますか。
—— はい。本校のDPカリキュラムは文部科学省の定める学習指導要領にも対応しているため、日本の高等学校卒業資格も取得できます。

7 途中でDPから一般コースへの変更はできますか。
—— 同意書を受理してからのコース変更は認めていません。

8 DPを選んだ場合、留学できますか。
—— できません。DPの2年間において、途中でコースを離れることは認めていません。

9 朝日塾への編入を考えています。前の学校もDPを実施しており、朝日塾と同じ科目・同じレベルの授業を選択していました。前の学校の授業時間数をカウントに入れることはできますか。
—— できません。

10 英語は得意ですが、日本語が苦手です。
日本語で行う科目の課題を英語で行うことはできますか。
—— できません。指定された言語で取り組むことが求められます。本校のDPは、日本語と英語で行うプログラムであり、日本語と英語の両方について高度な言語運用能力が必要です。

11 英語に自信がありません。英語B(グループ2)と数学(グループ5)を日本語で受講することはできますか。
—— できません。日本語DPでは最低2科目を英語で受講することが求められます。本校では、英語Bと数学が英語で受講する科目となっています。

<編転入学試験について>

※出願の詳細については、募集要項を併せてご確認ください。

12 いつまでに編転入学すれば、DPを選択できるでしょうか。
—— 本校ではYear1が高等部1年次の1月にスタートします。従って、高等部1年次12月の編転入学試験を受験し、1月から入学する必要があります。(高等部2年次から編転入学した場合、DPを選択することはできません。)

13 DPと一般コースで迷っているのですが、合格後にコースを選択し直すことはできますか。
—— できません。出願時にDPを選択し、所定の試験に合格した方がのみがDP生として認められます。合格後に一般コースへ変更することはできません。

14 DPと一般コースで、選抜の基準は変わりますか。
—— 出願時に選択するコースに関係なく、同じ試験内容で区別なく選抜を行います。ただし、DPを希望する場合、日本語と英語の運用能力に関して、所定のレベルに達していることが条件となります。また、海外からの留学生及び帰国生に関しては、試験科目等が異なります。

<その他>

15 費用について、一般コースとどのような違いがありますか。
—— 一般コース生との費用とは別に、「DP設備等維持費」として月額20,000円を2年間(高等部1年次1月から高等部3年次12月まで)お納めいただきます。この費用は、ライティング支援システム(Turnitin)使用料、理科等の実験器具維持費、IB関連の書籍購入費等に充当されます。また、下に例として挙げている実費に関しては、別途ご負担いただきます。
《ご負担いただく実費の例》
・教材費(テキスト、参考文献、関数電卓、文房具等)
・理科実験時の個人用備品(白衣・ゴム手袋・ゴーグル等)
・フィールドワーク等、校外学習時の現地までの交通費・施設利用費
・IB最終試験受験料

国際バカロレア(IB)とは？

What is International Baccalaureate?

2025年4月 ユネスコスクール加盟認定

グローバル化する世界において、異文化の共存と平和に貢献できる人物として、バランスの取れたスキルを身につけ、学び続ける人物を育てるというユネスコスクールの理念は、IB教育の理念と多くの点で合致します。



2021年1月

一条校として中国地方最初の国際バカロレア MYP・DP 認定校となりました。

※一条校とは、学校教育法第一条に規定されている学校のことであり、専修学校や各種学校は含まれません。朝日塾中等教育学校は、一条校として、文科省が定める学習指導要領に則り、IB教育と「主体的・対話的で深い学び」の実践の両立に取り組んでいます。

IB認定校は「質の高い、チャレンジに満ちた国際教育に信念をもって取り組む」という理念を共有する学校であり、「IBの使命」に実践を通じて近づこうとすることがIB認定校としての責任です。IB教育は、様々なことに対し問題意識を持ち解決に向けて取り組むための「探究心」や「協調性」を育む教育プログラムとして世界的に高い評価を受けています。



国際バカロレア機構とは？

International Baccalaureate Organization

国際バカロレア機構（IBO）は、優れた国際教育のプログラムを提供し、世界共通の大学入学資格を授与することを目的として、世界のインターナショナルスクールの教員と保護者によって1968年に設立された非営利教育団体です。（本部はスイスのジュネーブにあります。）
現在では、大学入学資格を授与するのみならず、卓越した国際教育のプログラムを提供することで、国際的な若者の育成に貢献しています。
IBOの認定を受けたIB認定校（IBワールドスクール）は、以下の「IBの使命」に基づいた教育活動を全世界で行っています。



IBの使命 The IB Mission Statement

国際バカロレア（IB）は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。この目的のため、IBは、学校や政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組んでいます。

IBのプログラムは、世界各地で学ぶ児童生徒に人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることができる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけています。



IBの学習者像 The IB Learner Profile

「IBの学習者像」は、上の「IBの使命」を具体化したもので、「国際的な視野を持つとはどういうことか」という問いに対する答えを、人物像という形で表現したものです。IB認定校では、それぞれの学校が独自にこのIBの学習者像を解釈したポスターを作成し、校内に掲示することが求められます。

<p>探究する人</p> <p>私たちは、好奇心を育み、探究し研究するスキルを身につけます。ひとりで学んだり、他の人々と共に学んだりします。熟意をもって学び、学ぶ喜びを、生涯を通じて持ち続けます。</p>	<p>コミュニケーションができる人</p> <p>私たちは、複数の言語やさまざまな方法を用いて、自信をもって創造的に自分自身を表現します。他の人々や他の集団の「ものの見方」に注意深く耳を傾け、効果的に協力し合います。</p>	<p>心を開く人</p> <p>私たちは、自己の文化と個人的な経験の真価を正しく受け止めると同時に、他の人々の価値観や伝統の真価もまた正しく受け止めます。多様な視点を求め、価値を見いだし、その経験を糧に成長しようと努めます。</p>
<p>知識のある人</p> <p>私たちは、概念的な理解を深めて活用し、幅広い分野の知識を探究します。地域社会やグローバル社会における重要な課題や考えに取り組みます。</p>	<p>信念をもつ人</p> <p>私たちは、誠実かつ正直に、公正な考えと強い正義感をもって行動します。そして、あらゆる人々もつ尊厳と権利を尊重して行動します。私たちは、自分自身の行動とそれに伴う結果に責任をもちます。</p>	<p>思いやりのある人</p> <p>私たちは、思いやりと共感、そして尊重の精神を示します。人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界を良くするために行動します。</p>
<p>考える人</p> <p>私たちは、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルを活用します。率先して理性的で倫理的な判断を下します。</p>	<p>バランスのとれた人</p> <p>私たちは、自分自身や他の人々の幸福にとって、知性、身体、心のバランスをとることが大切だと理解しています。また、私たちが他の人々や、私たちが住むこの世界と相互に依存していることを認識しています。</p>	<p>挑戦する人</p> <p>私たちは、不確実性に対し、熟慮と強い意思をもって向き合います。ひとりで、または協力して新しい考えや方法を探究します。挑戦と変化に対し、機知に富んだ方法で取り組みます。</p>
<p>振り返りができる人</p> <p>私たちは、世界について、そして自分の考えや経験について、深く考察します。自分自身の学びと成長を促すため、自分の長所と短所を理解するよう努めます。</p>		

ATLスキル「生涯学習者として必要なソフトスキル」

- | | | |
|--|--|--|
| <p>① コミュニケーションスキル
メッセージや情報を効果的にやりとりする</p> <p>② 協働スキル
他者とともに効果的に取り組む</p> <p>③ 整理整頓する力
時間と課題を効果的に管理する</p> | <p>④ 情動スキル
心理状態を管理する</p> <p>⑤ 振り返りスキル
学習プロセスを検討する</p> <p>⑥ 情報リテラシースキル
情報を見つけ、解釈し、判断し、創造する</p> | <p>⑦ メディアリテラシースキル
思考や情報を用い、創造するためにメディアと付き合う</p> <p>⑧ 批判的思考スキル
論点や考えを分析し、評価する</p> <p>⑨ 創造的思考スキル
今までにないアイデアを生み出し、新しいものの見方を検討する</p> <p>⑩ 転移スキル
スキルと知識を多角的な文脈において用いる</p> |
|--|--|--|

IBの教育プログラム

IBには初等教育プログラム（PYP）、中等教育プログラム（MYP）、ディプロマ・プログラム（DP）という3つの教育プログラムがあります。（この他にCP（Career-related Programme）というプログラムもあります。）
各国の教育的要件や文化的背景、子供の成長段階に応じた優先事項等、様々なことに合ったカリキュラム編成を可能とするため、PYP・MYPでは、主にカリキュラムの「枠組み」が提供されています。一方、DPは、2年間の活動記録と高等部3年次の11月に実施される「最終試験」の結果に基づき世界共通の大学入学資格「IBディプロマ」を授与することになりますので、厳格なカリキュラムが組まれています。
IBの認定を受けている学校は、2025年3月時点で、世界160以上の国・地域において約5,800校あります。

<p>DP Diploma Programme ＜ディプロマ＞</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 対象年齢：16歳～19歳 ● 高校2～3年生の2年間で6つの科目と3つのコア科目を履修 ● 最終試験を経て所定の成績を収めると、国際的に認められる大学入学資格（IBディプロマ）が取得できる。原則として英語、フランス語、スペイン語で実施。 ● 学校数：3,799校（日本国内73校）
<p>MYP Middle Years Programme ＜中等教育＞</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 対象年齢：11歳～16歳 ● 中学校から高校のカリキュラムに相当 ● 履修する8科目を通じて、これまでの学習と社会のつながりを学ぶ。母国語で学ぶことが出来る。 ● 学校数：1,867校（日本国内41校）
<p>PYP Primary Years Programme ＜初等教育＞</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 対象年齢：3歳～12歳 ● 主に小学校のカリキュラムに相当。 ● 精神と身体の両方を発達させることを重視したプログラム。母国語で学ぶことが出来る。 ● 学校数：2,426校（日本国内76校）

上の学校数はプログラム単位で数えた校数ですので、認定校の合計数（5,800校）とは異なります。



PYPとMYPの繋がり

カリキュラムや評価の特徴

PYP	MYP
<p>6つの教科の枠を超えたテーマを通じて、知識、スキル、概念的な理解を深めます。児童のエージェンシー（主体性）を支えることを意図し、「遊び」と「学び」を組み合わせられた授業が展開されていきます。</p> <p>評価は、授業態度・提出課題・パフォーマンス等の形成的評価と各単元の集大成となる総括的評価の2つの形態があり、ルーブリックを用いて「到達度」で評価します。</p> <p>PYPの学びの集大成として「PYPエキシビション」が行われます。</p>	<p>「グローバルな文脈」を通して8つの教科を学習します。複数教科が合同で実施する「IDU（学際的単元）」に取り組み、「SA（奉仕活動と行動）」ではコミュニティの中での責任感を育みます。</p> <p>評価は、PYPと同じように、授業態度・提出課題・パフォーマンス等の形成的評価と各単元の集大成となる総括的評価の2つの形態があり、ルーブリックを用いて「到達度」で評価します。</p> <p>MYPの学びの集大成として、「パーソナルプロジェクト」に取り組みます。</p>

「実社会との繋がり」の学び方

PYP	MYP
<p>6つの教科の枠を超えたテーマ</p> <p>「私たちは誰なのか」</p> <p>「私たちはどのような場所と時代にいるのか」</p> <p>「私たちはどのように自分を表現するのか」</p> <p>「世界はどのような仕組みになっているのか」</p> <p>「私たちは自分たちをどう組織しているのか」</p> <p>「この地球を共有するということ」</p>	<p>6つのグローバルな文脈</p> <p>「アイデンティティーと関係性」</p> <p>「空間的・時間的位置づけ」</p> <p>「個人的表現と文化的表現」</p> <p>「科学技術の革新」</p> <p>「公平性と発展」</p> <p>「グローバル化と持続可能性」</p>

「生きる力」を身に付けるMYP

MYPは11歳から16歳までの生徒を対象としたプログラムです。本校では、中等部1年生(MYP2)から高等部1年生(MYP5)までの4年間、在籍する全ての生徒がこのプログラムで学びます。MYPの各教科を通して、生徒たちは、コミュニケーション・社会性・自己管理・リサーチ・思考の5つに大別される「ATLスキル=学び方を学ぶ力」を身に付けていきます。(ATLとはApproaches To Learning(学習の方法)の略称です。)

ATLスキルを中等部1年生から少しずつ身に付けていく中で、DPに進んでいく学力だけでなく、論理的思考力や問題解決能力などが養われます。

MYP各教科と学習指導要領の関係

本校では、右図の通り、MYPの8つの教科群を学習指導要領の各教科と対応させています。学習指導要領で示された内容を、「探究⇄行動⇄振り返り」の相互作用を通じて学んでいきます。「言語の習得(外国語)」以外の科目は日本語で授業を実施します。

MYPでは、「重要概念」「関連概念」という2つの枠組みの概念理解に重点を置いた指導が行われます。この概念理解を通じて、各教科を他の教科や実社会とは関連性のないものとして捉えるのではなく、教科内容と実社会との関連性を理解するように生徒に働きかけていきます。

MYP教科群	学習指導要領の教科<中等部>	学習指導要領の教科<高等部>
言語の習得	外国語	外国語
言語と文学	国語	国語
個人と社会	社会	地理歴史・公民
理科	理科	理科
数学	数学	数学
芸術	音楽・美術	芸術
保健体育	保健体育	保健体育
デザイン	技術・家庭	情報・家庭

MYP特有の様々な授業

● SA (Service as Action: 奉仕活動と行動)

「行動(実際に行い経験することによって学ぶこと)」をIBは学習プロセスの重要な要素と位置付けています。その中の「奉仕活動」に関して、「人のために行う」という考えから、公共の利益のために「人と協働で取り組む」という考え方に進化させていくことがMYPでは求められます。様々な活動とその振り返りを通じて、自己認識を高め、コミュニティの中での責任感を育てていきます。

● PP (Personal Project: パーソナルプロジェクト)

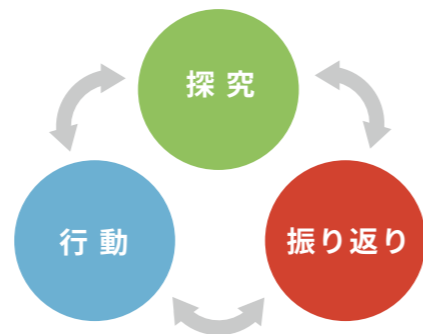
文字通り「生徒一人ひとりが取り組む探究活動」です。生徒は、自身の興味・関心に基づいたテーマを掲げ、具体的な目標を設定して成果物(作品や活動など)を作成します。その過程を「プロセスジャーナル」に記録することで「探究⇄行動⇄振り返り」のサイクルを可視化し、最終的に探究の道のりをレポートにまとめます。これはMYPにおける学習の集大成となります。

● IDU (Interdisciplinary Unit: 学際的単元)

学際的な学習とは「2つ以上の教科の知識体系や考え方を理解し、それらを統合して新たな知識を創造するプロセス」です。「教科横断型授業」とも呼ばれ、文科省が推進する「学習指導要領」でも求められている授業方法です。各教科に根差した「ものの見方」を融合することで、生徒は単一教科の学習だけでは到達できない「新しいものの見方」を身に付けていきます。

● 英語習熟度別授業

IBは生徒が自国の文化と他国の文化を主体的に理解できるよう2つ以上の言語の習得を義務づけています。MYPでは「Phase」と呼ばれる習熟度別クラスで英語の授業を展開し、生徒それぞれの学力に合わせたクラス編成で英語運用能力の向上を目指します。



▲ MYPプログラムイメージ図

本校で開講する科目

文系	言語と文学 HL	英語 B HL SL	生物 HL SL	歴史 HL	地理 SL	数学 SL
理系	言語と文学 SL	英語 B SL	生物 HL	化学 HL	地理 SL	数学 HL

※HL (Higher Level) を3科目、SL (Standard Level) を3科目履修します。

※文系を選択した場合、英語と生物のどちらかでHLを選択します。

※英語Bと数学は、英語メインの授業です。(最終試験も英語で受験します。)

※本校ではグループ6(芸術)を開講していません。芸術の代わりに文系は歴史HL、理系は化学HLを受講します。

※上記6科目に加えて、コア科目(TOK・EE・CAS)も学習します。



▲ DPプログラムイメージ図

「IBディプロマ」を取得する条件

選択した6つの科目の評価については、7段階評価で4点以上が合格となります。また「コア科目」のうちTOKとEEに関しては、合計で最大3点を与えられます。45点満点中24点以上で、IBディプロマ(認定証書)を取得することができます。(6つの科目の合計点が24点を越えていたとしても、「コア科目の3要件」、追加の要件を満たしていない場合には、取得できません。)

各科目の成績評価は内部評価と外部評価の合算です。内部評価とは担当教員による評価のことであり、評価全体の2~3割を占めます。(内部評価もIBに提出することが義務付けられており、評価基準に沿って適正に評価を出しているかチェックを受けます。)評価全体の7~8割を占める外部評価とは、5月と11月に実施される最終試験のことです。この試験の採点はIBの試験官が行います。本校の場合、高等部3年次の11月に受験し、12月に最終スコアが通知されます。IBディプロマの取得率は、例年7割程度で推移しています。万が一、最終試験に不合格となった場合、翌年、再度チャレンジすることが可能です。

本校でのDP選考基準

A. 受け入れ基準

本校は、中高一貫校ですので、中等部3年生(MYP4)から高等部1年生(MYP5)に進学する時に、改めて入学試験を受ける必要はありません。高等部1年生(MYP5)の段階で、DP受講希望の生徒は、以下の基準を満たした上で、所定の手続きを取ることが必要となります。

- DPで2年間の学習を行う強い意志を有していること。
- 高等部1年(MYP5)における、MYP全8教科のMYP評価の平均値が4.0以上であること。
- 高等部1年(MYP5)修了時までに、英語の外部検定試験の評価がCEFR「A2」以上のレベルであること。
- 留学生の場合には、高等部1年(MYP5)修了時までに、日本語能力試験(JLPT)「2級(N2)」以上のレベルであること。

B. 選考

左記基準を満たし、DP受講を希望する生徒は、担任にその旨を伝えます。担任と学年主任は、MYP・DPコーディネーターに報告します。MYP・DPコーディネーターは、生徒・保護者の意思確認を行い、「保護者同意書」「学問的誠実性に関する同意書」「DP教科・科目選択届出書」を渡します。所定の期日までに書類を提出した生徒・保護者に対して、MYP・DPコーディネーター・管理職が面接を実施します。面接では、生徒・保護者のIB教育の理解度、DP学習に対する最終的な意思確認を行います。なお、高等部1年生に編入し、DP受講を希望する生徒に対しては、書類審査・作文(必要に応じて学科試験)・面接を実施します。また、編入学時の言語レベルに関しては、左記「受け入れ基準」の言語レベルを満たしていることが条件となります。(試験内容等の詳細は「編転入学試験募集要項」をご確認ください。)

日本の学習指導要領との両立

学校教育法第一条で規定されている高等学校では、日本の高等学校の卒業資格を取得するためには日本の学習指導要領で定められた科目を履修しなくてはならず、DPコースに進んだ場合の負担はかなりのものでした。日本国内でのIB教育の普及を目的として、2015年8月に学校教育法施行規則の一部が改正され、DP認定校では、IBのカリキュラムと学習指導要領の双方を無理なく履修できるよう、高校卒業に必要な74単位のうち36単位を、DPの科目で読み替えるようになりました。



日本語DPとは?

IBで使用されていた言語は英語・フランス語・スペイン語の3つでしたので、日本国内のIB校では授業の全てを英語で実施しなくてはならず、IB導入が進まない1つの要因となっていました。そこで文部科学省とIBが協力し、DPの一部科目の授業・試験・評価を日本語で実施する「日本語DP」が2015年度から導入されました。

生徒の知的好奇心を刺激する様々な教科

教科【科目】／レベル（HL：Higher Level、SL：Standard Level）
 ：2年間の標準授業時間数（60分単位）／使用言語 ※丸数字はグループを表しています。

① 言語と文学【日本語A：言語と文学】
HL：240時間・SL：150時間／日本語

日本語A：言語と文学では、SLで4つ、HLで6つの文学作品を中心に広い範囲の文学と非文学テキストを学びます。7つの概念（アイデンティティ・文化・創造性・コミュニケーション・観点・変換・表現）を重要視し、言語全体の本質と影響力について感性を磨くことがなれます。生き生きとした言語の特性を知り、実際の意味と同時にその奥深くにある美しさを探究することで、さまざまな文化に対する批判的思考と国際的な視野を養います。

② 言語習得【英語B】
HL：240時間・SL：150時間／英語

英語Bは、実生活において英語でコミュニケーションを取る能力を身につけると同時に、英語圏の文化に親しみ、そして理解を深める為に設計されたコースです。ビジネスレターやレポート、新聞記事や文学作品、延いてはエッセーやブログ記事に至るまで、生徒の関心を喚起する様々なタイプの情報を題材として学習を進めていきます。さらにHLでは、2つの文学作品にも取り組みます。（本校では、G.Orwell作「動物農場」とR.J.Palacio作「Wonder」を扱う予定です。）グローバルな問題や社会との繋がりを通して、英語圏の興味深いテーマを探っていきます。

③ 個人と社会【歴史】
HL：240時間／日本語

DP歴史では、世界史を古代から現代まで広く浅く取り上げるのではなく、いくつかのテーマを選んで深く探求していくことになります。また、4つの地域世界から主な学習対象を1つ選びます。本校では、20世紀の世界史に関わるテーマを取り上げ、アジア世界を中心に学習する予定です。様々な資料を分析し、調査し、議論して、歴史的思考力を高めていきます。

③ 個人と社会【地理】
SL：150時間／日本語

地理とは個人と社会と物理的な過程との間に生じる相互作用を時間と空間の両面から捉える学問です。加えて地理は「社会科学」と「自然科学」との間に位置するため、幅広い学問領域を取り扱います。本校では、レポート作成やグループ発表といったアクティブラーニングやフィールドワークを行うことにより、多角的な視点から社会を見つめ考察する力を身につけます。

④ 理科【化学】
HL：240時間／日本語

化学の原理は、私たちが生活する物理的環境や全ての生物システムの理解を支える土台となっています。DP化学では、化学の基本原則を学びます。そのため、理論と実験の両方を取り組み、科学的な知識、実験スキル、批判的思考力、コミュニケーション能力、デジタル技術のスキル等、様々な能力やスキルを取得していきます。さらには化学の国際的側面についての認識を高めることも行います。

④ 理科【生物】
HL：240時間・SL：150時間／日本語

生物学は、生命について研究する学問です。生物の多様性が、生物学を魅力ある、チャレンジに満ちた学問にしています。DP生物では、実験を通じた実践的なアプローチによって学習を行います。実験の計画から実施、まとめまで一連の活動を生徒個人で行います。こうした学習を通して、リサーチスキルやコミュニケーションスキル、批判的思考力、国際的な視野等を身につけていきます。

⑤ 数学【応用と解釈】
HL：240時間／英語

数学HLは生徒に現実世界の問題を解決するために数学がどのように用いられるかを探究し理解する様々なチャンスを与えるので、テクノロジーも使いつつ数学的思考力を育むことができます。代数、幾何、三角法、およびその他の大学入学前の数学すなわち記述および推測統計学、線形代数、ベクトルと行列、さらに微分方程式とグラフ理論を含む微分積分をカバーしています。HLを希望する生徒としては、代数のスキルに秀で、実社会の難しい問題を探究することから喜びや満足を感じられる生徒が望まれます。

⑤ 数学【応用と解釈】
SL：150時間／英語

数学SLもHLと同様に、テクノロジーも使いつつ実社会の問題を解決することにより数学が実社会でどのように応用されるかを学べるように設計されています。このコースに含まれるトピックはHLとは少し異なりますが、このコースも代数、幾何、三角法に加えて統計や微分積分のような大学入学前の数学をカバーしています。このコースを希望する生徒としては、実社会の問題を説明するために数学的能力を高めることに興味を持っている生徒が望まれます。

⑤ コア TOK (Theory of Knowledge 知の理論)
100時間／日本語

「歴史」「人間科学（ヒューマンサイエンス）」「自然科学」「数学」「芸術」という5つの領域と、「知識と言語」「知識と政治」という2つの選択テーマを扱います。これらの分野の様々なテキストを分析することで、批判的思考力（クリティカルシンキング）を高めていきます。「TOK展示」と「TOKエッセイ（日本語3200字）」という2つの課題に取り組むことで、複数のものの見方に触れ、心を開く姿勢を養い、多様な文化の価値観を認めるような人間になることを目指します。

⑤ コア EE (Extended Essay 課題論文)
日本語または英語（取り組む課題によって異なります）

DPで学習する内容の中で、特に生徒自身の興味関心と深い繋がりがあつたものを1つ選択し、8000字（英語の場合4000語）の論文に取り組みます。生徒一人ひとりに指導教員（スーパーバイザー）が付き、授業外の時間を活用して、論文作成を進めます。論文執筆を通して、生徒はDPで学習した内容をより深く理解できるようになると同時に、これまでに身につけたATLスキルを更に向上させることが出来ます。

⑤ コア CAS (Creativity, Activity, Service)
創造性・活動・奉仕
課外活動／日本語

創造的思考を伴う活動、身体的な活動、無報酬での自発的な交流活動（奉仕活動）といった体験的な学習に取り組みます。生徒はCASコーディネーターやアドバイザーとのミーティングを通して、計画・行動・振り返りを行います。また、単発的または継続的な活動を通して「自己の成長」と「他者との関係性」について深く考察していきます。授業以外の時間を活用して、2年間、創造性・活動・奉仕のバランスを保ちながら、CAS活動を進めていきます。



国際的に評価される大学入学資格「IBディプロマ」

■海外の大学でのIB入試

現在、世界の1800以上の大学でIBディプロマ資格を活用した入学試験制度が採用されています。IBディプロマ資格は入学を希望する際の資格の1つです。大学が定めている試験や、その大学が所在する国で定められた試験のスコア等が別途必要となることがあります。海外では、入学試験の判断材料として活用することに加えて、DPのHL科目で一定の得点を取得した生徒に対して、大学における該当科目の履修を免除したり、最終試験の総合点が極めて優秀な生徒に対しては、いわゆる「飛び級」という形で大学2年次に所属することを認めたりといった制度を有する大学もあります。

■日本の大学でのIB入試

日本では、IBディプロマ資格を取得した18歳の生徒は高校卒業と同等以上の学力を有していると認められ、日本の大学入試の受験資格を得ることができます。近年、国立、私立を問わず、IBディプロマ資格を利用した大学入試を実施する大学が増えています。出願要件などは大学ごとに異なりますが、多くの大学で総合型選抜（旧AO入試）などの出願資格の一つとして活用されており、所定の要件を満たした場合、受験することが可能です。日本の大学でもDPの成績等を活用した入学試験を積極的に導入する動きが広がっています。



《IB入試を実施している日本の大学の一例》

国立大学	北海道大学	東北大学	筑波大学	お茶の水女子大学	東京大学
東京医科歯科大学	東京外国語大学	東京藝術大学	金沢大学	名古屋大学	京都大学
大阪大学	岡山大学	広島大学	九州大学	長崎大学	鹿児島大学
公立大学	国際教養大学	東京都立大学	横浜市立大学	都留文科大学	大阪市立大学
私立大学	青山学院大学	学習院大学	慶応義塾大学	国際基督教大学	順天堂大学
玉川大学	中央大学	東京国際大学	東洋大学	法政大学	武蔵野大学
明治学院大学	立教大学	日本体育大学	愛知医科大学	中京大学	東京外国語大学
立命館大学	近畿大学	関西学院大学	神戸女学院大学	西南学院大学	立命館アジア太平洋大学

■日本におけるIB入試の実例

① 岡山大学
国際バカロレア選抜（10月募集）

出願要件	言語と文学が4以上 <small>（追加要件）・工（機械システム系と環境社会基盤系（都市環境創成コース）） ……DP物理）が必要 ・医（医）……45点満点中39点以上 ・薬……45点満点中32点以上</small>
出願書類	自己推薦書（志望理由、自己アピール、活動記録） 成績評価証明書 評価書（学業、人物特性と調査書）
選抜方法	書類審査＋面接 ※一部の学部は書類審査のみ

② 関西学院大学
グローバル入試 IB入試

出願要件	最終試験のスコアが24点以上 理系には、数学と理科にHL履修の条件あり
出願書類	志望理由書
選抜方法	【第一次】英語題材論述、小論文 【第二次】面接 <small>CEFR B1（英検二級レベル）は試験免除</small>



※上記の実例は、2025年度募集要項から抜粋したものです。受験を検討される際には、必ず各大学の最新の募集要項をご確認ください。

注意点

DPを利用して大学へ出願する場合、どの科目をどのレベルで選択したかが重要となります。例えば、受験資格要件として、「数学をHLで選択し、7段階中5以上の成績を修めている」や「理科2科目履修している」といった形で、DP科目を指定していることがあります。概して、理系分野の学部・学科において、細かい出願条件が課せられている場合が多いので、十分注意してください。

詳細はこちら

国際バカロレアの詳細については「国際バカロレア公式ウェブサイト（<http://www.ibo.org>）」または、「文部科学省IB教育推進コンソーシアム（<https://ibconsortium.mext.go.jp/>）」をご覧ください。



公式ウェブサイト



IB教育推進
コンソーシアム